

(2) 環境計画進捗状況

①めざす方向（環境像）と基本目標

基本目標	指標の項目名	指標の目安	進捗状況	
1	人工海浜で確認された生きものの数	より多くの生きものの生息を目指します	358 種 貝類：81 種、甲殻類：32 種 魚類：25 種、陸上植物：50 種 海岸性甲虫類：6 種 昆虫類・クモ類：112 種 鳥類：52 種 (出典) きしわだ自然資料館「ちきりアイランドの人工干潟における環境保全活動実践業務」令和6年度報告書より	
	市民一人当たりの都市公園面積	8.6 m ² /人 *	9.5 m ² /人	
	施設緑地面積	345.05ha *	358.9ha	
	里山保全活動数	毎年、増加を目指します	2,849 人	
2	環境基準の達成	すべての項目での環境基準達成	大気	
			項目	達成状況
			二酸化硫黄	○
			二酸化窒素	○
			一酸化炭素	○
			光化学オキシダント	×
			浮遊粒子状物質	○
			微小粒子状物質	○
			ベンゼン	○
			トリクロロエチレン	○
			テトラクロロエチレン	○
			ジクロロメタン	○
			騒音	
			地域	達成状況
			一般地域	×
道路に面する地域	×			
航空機騒音	○			
水質（公共用水域）				

			牛滝川高橋	春木川春木橋
			○	○
			×	○
			○	○
		水質（地下水）		
		地点	達成状況	
		概況調査	○	
		継続監視調査	×	
		ダイオキシン類		
		項目	達成状況	
		大気	○	
		河川水質	○	
		河川底質	○	
		土壌	○	
	生活排水適正処理割合	90.0% *	95.0%	
3	市民1人当たりの年間温室効果ガス排出量	4.0 t-CO2 *	4.5 t-CO2 （2022（令和4）年度）	
	市民1人1日当たりの一般家庭普通ごみ排出量	401.3 g *	384.2 g	
	事業系ごみ年間排出量	30,561 t *	29,068 t	
	リサイクル率	14.7% *	10.4%	
4	地域の環境保全活動数	毎年、増加を目指します	950人	

※ *は本市の総合計画である「将来ビジョン・岸和田 第1期基本計画」で設定されているみんなでめざそう値。

②計画の体系

「目指す方向（環境像）」と「基本目標」の実現に向けて、「取組の方向性」と「施策」を次のように整理し、計画を推進します。

	基本目標 (環境指標)	取組の柱	取組方針
目指す方向 (環境像) 自然を友に 人 ・ まち ・ 未来	1 生物多様性に配慮し、人と自然との共生を図る (人工海浜で確認された生きもの数、市民1人当たりの都市公園面積、施設緑地面積、里山保全活動数)	(1) 生物多様性の保全	①生態系に配慮した自然環境の保全と創出
			②水とみどりの保全と創出
			③生きものや自然とのふれあいの促進
			④外来生物への対応
		(2) 自然資源の利用の促進	①豊かな自然資源の活用
			②環境と調和した安全・安心な農水産物生産の推進
	2 健康で安全に暮らせる潤いのある環境を形成する (環境基準達成状況、生活排水適正処理割合)	(1) 生活環境の保全	①健康に過ごせる生活環境の保全
			②新たな環境課題への対応
		(2) 快適で美しいまちづくりの推進	①快適環境の保全とモラル・マナーの向上
			②地域の特性に応じた景観の保全と創造
		(3) 健全な水環境・水循環の創出	①水環境の保全
			②水資源の確保と有効活用
	3 持続可能な循環型社会を形成する (市民1人当たりの年間温室効果ガス排出量、市民1人1日当たりの一般家庭普通ごみ排出量、事業系ごみの年間排出量、リサイクル率)	(1) 低炭素な暮らしや事業活動の推進	①低炭素なまちづくりの推進
			②省エネルギー・再生可能エネルギーの活用推進
			③環境に配慮した移動手段対策の推進
		(2) 減量化・再使用・再資源化・適正処理の推進	①廃棄物の発生抑制の推進
②再資源化の推進			
③適正処理の推進			
4 環境を大切にしたい価値観の醸成と活動を促進する (地域の環境保全活動数)	(1) 環境に関する情報の公開・提供の推進		
		(2) 地域の環境保全活動・環境教育・環境学習の促進	

(3) 地球温暖化対策

①岸和田市の状況

(ア) 温室効果ガス排出削減目標と目標年度

2024（令和5）年3月改定の岸和田市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）において、計画期間を2031（令和13）年度までとし、温室効果ガス排出量の削減目標は下記のとおりとしています。

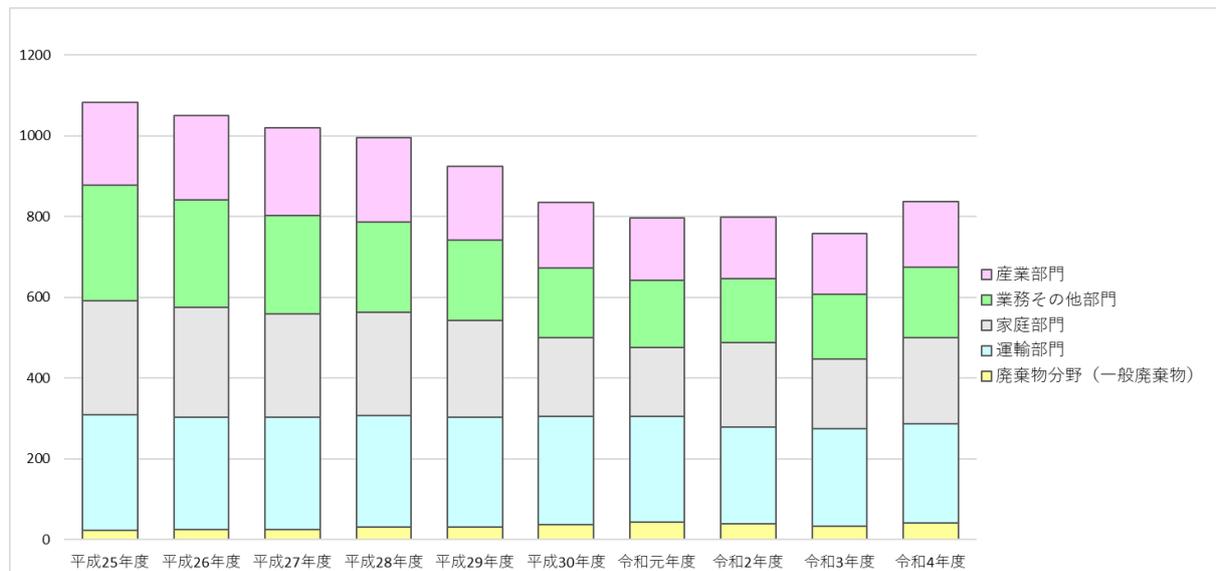
	基準年度 2013（平成25）年度	中期目標 2030（令和12）年度	長期目標 2050（令和32）年度
温室効果ガス排出量 （千t-CO ₂ ）	1,082.2	541.1 （基準年度比50%減）	実質排出量ゼロ

(イ) 二酸化炭素の排出状況

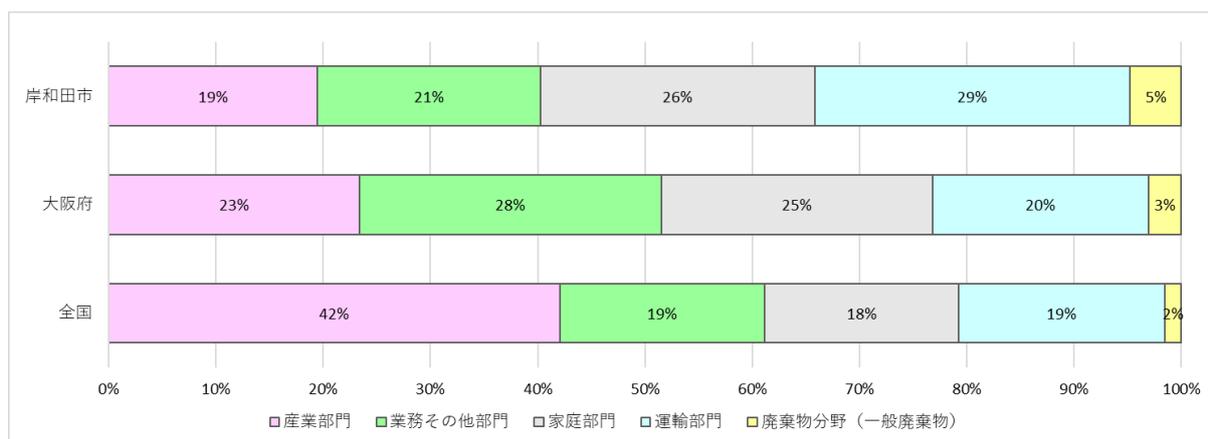
岸和田市域における2022（令和4）年度の二酸化炭素排出量は約837千t-CO₂です。基準年度である2013（平成25）年度比で22.6%削減されています。

部門・分野別の温室効果ガス（CO₂）排出量の経年変化（岸和田市）

部門・分野	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	2013年度 排出量 （千t-CO ₂ ）	2014年度 排出量 （千t-CO ₂ ）	2015年度 排出量 （千t-CO ₂ ）	2016年度 排出量 （千t-CO ₂ ）	2017年度 排出量 （千t-CO ₂ ）	2018年度 排出量 （千t-CO ₂ ）	2019年度 排出量 （千t-CO ₂ ）	2020年度 排出量 （千t-CO ₂ ）	2021年度 排出量 （千t-CO ₂ ）	2022年度 排出量 （千t-CO ₂ ）
合計	1,082	1,050	1,019	996	925	835	796	799	759	837
産業部門	204	208	217	211	183	162	154	152	151	163
製造業	194	192	199	194	168	148	141	130	129	142
建設業・鉱業	8	8	8	7	7	7	6	6	7	7
農林水産業	2	9	10	10	8	7	8	15	15	14
業務その他部門	287	266	244	222	200	174	166	160	162	174
家庭部門	281	272	255	256	240	194	170	209	173	214
運輸部門	287	278	278	276	272	268	262	240	240	246
自動車	268	260	260	258	256	252	248	226	225	231
旅客	156	149	148	148	146	144	140	123	119	126
貨物	112	111	111	111	110	109	108	103	106	106
鉄道	16	15	14	14	13	12	12	11	11	11
船舶	3	3	4	3	3	3	3	3	4	3
廃棄物分野（一般廃棄物）	23	26	25	31	30	37	43	39	34	40



部門・分野別構成比の比較（都道府県平均及び全国平均）



※ 環境省自治体カルテをもとに作成

※ 四捨五入の関係で、個々の数値の和と合計は必ずしも一致しません。

②地球温暖化対策設備導入補助事業

岸和田市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に基づき、温室効果ガス排出量削減と、地球温暖化対策設備の普及・促進を図ることを目的として、住宅又は集会施設に太陽光発電機器及び定置用リチウムイオン蓄電池若しくは HEMS を同時に設置した人、又は燃料電池コージェネレーション機器を設置した人に補助事業を実施しました。

対象者	市民又は町会・自治会	
対象機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光発電機器及び定置用リチウムイオン蓄電 ・ 太陽光発電機器及び HEMS ・ 燃料電池コージェネレーション機器 	
交付額	一律 5 万円	
交付件数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光発電機器及び定置用リチウムイオン蓄電 ・ 太陽光発電機器及び HEMS ・ 燃料電池コージェネレーション機器 	29 件 2 件 69 件

(4) 環境教育の推進

①岸和田・貝塚3Rふれあいフェア

岸和田市、貝塚市及び岸和田市貝塚市クリーンセンターの合同イベントとして、7月に岸和田市貝塚市クリーンセンターで、「岸和田・貝塚3Rふれあいフェア」を開催し、廃棄物のリサイクルなどについて啓発を行いました。

日 時	令和6年7月6日(土)
場 所	岸和田市貝塚市クリーンセンター(岸之浦町1番地の2)
内 容	工場見学やエコバッグ作成、牛乳パックの工作、エコマジックショー、子ども服の交換会などを行いました。
来場者数	725人(延べ数)

②広報紙及びホームページを通じた啓発

広報紙及びホームページにおいて、地球温暖化対策を主軸としたコラムを掲載し、啓発を行いました。

掲 載 月	テ ー マ
令和6年8月	「今、地球がピンチって知ってる?!」 脱炭素の重要性やカーボンニュートラルについての紹介
令和6年12月	「省エネ=がまん?」 カーボンニュートラルの一助となる省エネの取組についての紹介

③出前講座等

団体や大学から依頼を受けて、講師として登壇し、啓発を行いました。また、SDGsに関する講演会を開催しました。

日 時	件 名	内 容 等
令和6年6月14日(金)	山直高齢者大学	地球温暖化対策について
令和6年12月14日(土)	和歌山大学岸和田サテライト 学部開放授業	カーボンニュートラルを達成する 都市づくり
令和7年3月23日(日)	SDGs 講演会	京都小倉山から発信する自然・伝 統・新しい魅力について (講師:増永滋生氏)

(5) 市民活動との協働

①春木川・轟川をよくする市民の会

(ア) 目的

春木川・轟川流域の河川・水路等の環境問題について地域の住民が自主的に話し合い、関係機関との連絡、調整を図りながら協働して諸活動を進め、流域の豊かな水辺環境を取り戻し、うるおいのある地域づくりを進めること

(イ) 参加団体等

結成平成8年11月 流域にある町会、学校、各種団体及び個人

(ウ) 取組

■春木川・轟川一斉清掃

源流の神於山（北阪町）から河口（春木泉町）まで、およそ11kmを一斉に清掃。

護岸工事が進み、河川に下りられなくなっていることに加え、ごみが減少しているため、2024(令和6)年度は実施なし。河川の状況を見ながら幹事会で実施の協議を行うこととしました。

■ホタル再生部会

春木川の水質が改善しつつある中、再び川面にホタルを飛び交わせたいとの思いから、2009(平成21)年2月6日、ホタル再生部会が設置されました。同年9月8日の第1回部会以来、ホタルの種類と生態を学習するほか、ホタル再生に向け、生息地の調査などを重ねています。

②葛城の谷市民協議会

(ア) 目的

津田川の自然を守り、後世に引き継ぐこと

(イ) 参加団体

旭・太田、天神山、修斉、東葛城の各地区市民協議会

(ウ) 取組

■津田川一斉清掃

源流から虎橋までを一斉に清掃。

2024(令和6)年10月27日 参加者：400名 ごみ収集量：1.00t

2025(令和7)年 3月 9日 参加者：550名 ごみ収集量：1.59t

③牛滝川・松尾川を守る会

(ア) 目的

牛滝川・松尾川の美化と環境保全

(イ) 参加団体

全八木、山直北・城東、山直南、山滝の各地区市民協議会

(ウ) 取組

■牛滝川・松尾川一斉清掃

牛滝川の源流から高橋まで、松尾川の角川橋付近から郡界橋付近までを一斉に清掃。

護岸工事が進み、河川に下りられなくなっていることに加え、ごみが減少しているため、

令和5年度から一斉清掃は実施していません。清掃が必要な箇所については、地区ごとに美化活動を実施することとしています。